



### 18 太陽の東 月の西 (ノルウェーの昔ばなし)

北欧の国ノルウェーに、貧乏な一家がありました。そこへシロクマが現れ、  
「貧乏から救うかわりに、娘の一人を妻に迎えたい」と言いました。  
家族は、末娘を嫁に出しました。娘はシロクマと何不自由なく暮らしはじめました。ところが、シロクマは夜ごと変身するのです。  
娘には暗闇でその姿がよく見えません。シロクマも決してその姿を見てはいけません。  
ある夜のこと、娘はそとろうそくをかざしてしまいました。その姿は何とも凛々しい王子様ではありませんか。  
王子は嘆きました。「ああ、あなたがもう少し我慢してくれていたら、私への呪いは解けたのに」。  
王子は「太陽の東、月の西」という誰も知らない遠い遠い国へ幽閉されました。  
娘は王子を救う事を誓い、東風に乗れ、西風に乗れ、南風に乗って、いく日もいく日も世界中を探し回りました。  
そして最後は、唯一その場所を知るという北風に乗らなければなりません。しかし北風は冷たく厳しい存在です。  
娘の勇気は北風の心を動かし、ついに「太陽の東、月の西」へとたどり着きました。  
娘は王子を悪い魔女から救い出し、二人はいつまでも幸せに暮らしました。

# 大自然を動かすほどの、恋でした。

## ローム君の新・博物日記

### 世界昔ばなしを科学する

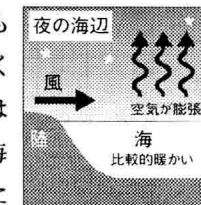
このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

#### ●追いかけるのが、ヨーロッパ風。

「太陽の東、月の西」のように美しい娘と野獣が登場する昔ばなしは、ヨーロッパで多く見られ、よく知られる「美女と野獣」もこれらがモチーフになったそうです。ただし「美女と野獣」は、この「太陽の東、月の西」と違い、真実の愛にテーマが絞られています。「美女と野獣」は、17世紀ルイ王朝の宮廷文学作家ドノワが書いた小説。当時は愛のロマンスが好まれたのです。一方、この昔ばなしのテーマは、むしろ日本の「鶴女房(鶴の恩返し)」に近く、それは「超自然的なものの正体を見てはいけない(自然への畏敬)」ということ。でも、「鶴女房」は逃げてしまっただけで終わりますが、「太陽の東、月の西」は相手をとことん追いかけて幸せに。日本人と欧米人の物語に対する考え方の違いが出ていて、おもしろいですね。

#### ●日本の冬の北風は、海辺の夜風。

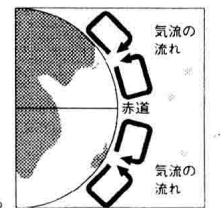
娘を救ってくれた北風。ところで、ここ日本の冬では、なぜわざわざ寒い北の方からよく風が吹いてくるのでしょうか。それは、「風は気圧の高い方から低い方へ吹く」から。海辺の昼と夜では風の吹く方向が違います。物質にはそれぞれ暖まり方(熱容量)があります。昼間は太陽光により陸地が海より熱くなり、その上空の空気も膨張して空気の密度は軽くなる、つまり陸地の気圧は低くなり、空気の流れは海から陸へとなります。反対に



夜は陸地の方が海より冷めやすく、風の流れは逆に。ここで、中国大陸と太平洋という大きな規模で考えればどうでしょう。冬は冷えきった大陸より、太平洋の方が温度は高く、風は気圧の低い太平洋へ向かって吹きます(西高東低の気圧配置)。大まかに言えば、これが冬の日本では北(正確には北西)からの風がよく吹く理由です。

#### ●砂漠を作るのは、人間と風。

世界をめぐる風は、なんと砂漠も作ります。大気は、普段感じるような風とは別に、地球規模で一定方向に大循環を続けています。赤道付近で暖められ上昇した空気の流れは、北極・南極方向へ向かいますが、北緯・南緯20度付近で下降します。このときの下降気流は、すでに含んだ水分をほとんど失ってしまった状態なので、その一帯の空気はいつも乾燥します。つまり砂漠は、太陽で水が干上がるから、というよりもまず、風にあまり水分が運ばれて来ない地域があるからできるのです。そんなもともと砂漠化しやすい地域とその周辺で森林破壊や塩害を引き起こし、拍車をかけているのは人間。反対に、人間の力での砂漠の緑化には、想像を絶する努力が必要。いったん自然とのルールを破ると、「太陽の東、月の西」への長い道のりが待っているようです。



昔ばなし監修/白百合女子大学教授 小澤俊夫